

(別紙の2)

## 自己評価及び外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	基本理念「ほっとハウスのおひさまの暮らし」を玄関、事務所に掲示し共有出来るようにしている、また全体会議、内部研修、個人面談等折にふれ理念について確認している。	「温かく”ほつ”と安心される、第二の我が家」、心の笑顔の絶えない家庭的な家を目指した理念を基に、ケアプランを作成し、短期目標に掲げた内容を職員が把握され、個々にあった介護に取り組んでいました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	開所から3年が経過し、少しずつ認知はされてきている。恒例となりつつある、ときわ祭りにも多くの方が来場いただいているが、保育園等との関りが持っていないので、次年度はそこに力を入れていきたい。	天気の良い日は、散歩に出掛けて地域の人と挨拶を交わしたり、野菜の差し入れを頂いたり、年に1度「ときわ祭」を開催して、近隣住民との交流を深めています。今後は保育園や小学校との交流を望みます。	災害時の避難先にもなっている小学校や、近くの保育園に交渉して、敬老会に招くなど、今後の交流の実現に期待しています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症対応型の施設であることを、発信しながら、施設見学者や、行事のボランティアさんの来所時の折に触れて、認知症の理解と悩み事や支援方法のお話をさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催し行政・常会長・民生委員・利用者の代表家族が出席されて、施設の様子と利用者様の状況を説明させて頂いている。参加者の皆さんからご意見・要望・アドバイスを頂き、スタッフのサービスの向上に努めている。	運営推進会議は定期的に関われ、利用者の状況や行事の報告などを行ない、包括センターからの催し案内や、避難先の確認を行うなど、積極的な意見交換がされていました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議、介護認定調査など行政の方が来所した折に事業所の日頃の様子を見て頂いたりして、情報交換をしている。	常会長や民生委員、地域包括センターの代表者が会議へ参加して、ホームの様子や、暮らしぶりをその都度見て頂いたり、今年度は、ときわ祭りにお誘いして、連携を図っていました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内部研修や勉強会を行い意識の共有化を図り身体拘束禁止を学び日々の言葉の拘束等を含めお互いに注意しあっている。付き添える範囲で気分転換に積極的に散歩するなど心がけている。	法人では介護の学校を運営するなど、職員への研修を積極的に行ない、身体拘束の研修も行なっています。職員の皆さんは身体拘束の理解を深め、自由で健全な暮らしに心掛けていました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止関連法については、全体会議でも勉強会を設けて意識を深め防止意識を高めている。実施例として、入浴時などに身体に外傷が無いのか、チェックし報告、原因の明確化に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度については行政機関の行う説明会に参加して理解を深めている。現在制度を利用している利用者はいないが、ご家族にも制度を利用する様に必要に応じて説明をして制度の周知を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に一つ一つの「利用するための契約」「身体拘束」など契約書類を分けてわかりやすく説明できるように配慮して、時間をかけて説明している。また、数名のご家族、関係者に同席を求める様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々の生活の様子、施設の取り組みを「信濃ときわの家のたより」として毎月発行している。運営推進会議でも配布して周知しているほか、内容についてのご意見を面会の折などに伺い、意見があった場合は会議で報告している。	毎月発行しているホーム便りは、誕生日月の利用者さんの笑顔をアップしたり、個々の様子を一言記入して、元気な様子を伝えていました。ご家族がホームに訪れた際は、話しやすい雰囲気づくりに心掛けて、率直な意見を聞き取れるように努めていました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	平成28年4月より人事考課を導入している、職員は年2回の自己評価をし、その後、面談を行こなっている。その個別面談で評価を反映する機会を作ったり、全体会議、ユニット会議で意見が反映できる環境となっている。	今年度から管理者が変わりましたが、食事前のお口の体操などを進んで行なうなど職場にとけ込み、職員の要望や意見などを聞きやすい、風通しの良い職場づくりに心掛けていました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事制度による賃金規程を作成し、個々の努力や実績、勤務状況により、昇給、昇格を行い、各自が向上心を持って働ける仕組みがある。また、定年退職後の職員も個々の雇用契約で延長しながら、経験を生かした働き方も取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月内部研修をおこなっている、研修テーマは、介護現場で必要な研修はもとより、当該ホームで必要とされる研修を随時取り入れている。外部研修も希望者は参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	当社法人グループの事業所の職員との交流を図ったり、外部研修などで他の事業所の方との意見交換を出来るようにしている。GH,小規模多機能施設等連絡会への参加も勤めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前に、本人との面会を行い様子や性格、生活歴等の把握に努めて、入所後1ヶ月程は特に様子を見守り関係性を大事にして、利用者の気持を引きだせるように気配り、情報の共有化を図り、安全・安心感に繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の方にも、今まで家庭でどんな風な生活をされていたかを伺い、グループホームでの生活との違いを理解して頂き、家の生活を継続出来るように、家族の不安や要望に添える様な関係づくりをしていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所時に現状を十分にお聞きして、当ホームの説明と他の施設の違いを理解して頂き、状況により他の施設を紹介することも考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	笑顔を決やらず、利用者主体で「おひさま暮らし」を合言葉とし寄り添い、優しく支援をし、穏やかな暮らしが保てるよう、利用者との関係に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月の「おたより」に利用者の日々の近況や出来事や生活の様子をお知らせして、家族との一体感を失わないように努めている。行事にも参加して頂けるように声掛けにも心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	外出時に馴染みの場所に立ち寄りたり、一人ひとりの大切な人との繋がりが思い出が途切れないように支援している。家族や友人の面会は何時でも来ていただけるように開放している。	近所から昨年入所された利用者さんは、馴染みの美容院に通い、ご近所への外出の機会を設けて、地域との関係性が継続できるような取り組みに心掛けていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者の相性に合わせた席を考えている。穏やかな交流が出来るように、雰囲気作りに努めてコミュニケーションが図られる関係を支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他の施設・事業所へ入所された場合でも家族にお会いする機会があれば失礼の無いように様子を伺ったり、その後も相談に応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	居室や入浴時など日常の会話の中で、ここでの生活のしずらさや意向や希望を丁寧に聞いて、その後も相談に応じている。	家庭的な雰囲気のもと、皆さんと一緒に過ごされているリビングでの時間が増えてきています。それだけに入浴時の介助者との1対1の時間は、個々の意向の聞き取りの機会として、有効に使われていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時に本人の意向を大切に、特に家族にも生活歴・サービス利用歴等を聞かせていただき、これまでの暮らしの継続性とニーズの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	その日その日の様子を観察・スタッフ同士の引継ぎを大切に現状の把握に努めている。毎月実施している、全体会議で情報を持ち寄りスタッフで共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネとスタッフは、利用者の日常の様子把握に努めて、全体会議で評価を行い介護計画の見直し改善を図っている。本人・家族の方の意見がプランに反映できているかを、面会時等に伺い同意を得ている。	介護計画で立てた個々の目標を、日々振り返りが出来る方法で記録に残し、ご家族が訪問された際には日常の様子を伝えて、改めてご本人が自分らしく暮らせるために、ご家族の意向の再確認に努めていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活記録や介護計画の実施記録には、日々の気づきを書き入れスタッフ間で情報を共有し介護計画に役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者の中には、レクリエーションで体を動かす体操をしたり、お話や触れ合いを楽しみにされる方もおり、CD・DVD・カラオケを活用して音楽や映像を使い活動的なサービスを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域自体の活動が少なくなってきたり、参加がなかなか難しくなっているが、個々への支援ではなじみの美容院にて散髪できるようにするなど配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医は入所時に、本人・家族にも選択して頂き、適切な医療を受けられるように家族にも協力をお願いしている。又スタッフも情報を共有して、受診後の様子をしっかりと伺いして必要に応じた対応している。	遠方からの入所者が多く、近くで適切な医療機関を案内していました。医療機関との連携を図られて、11月に肺炎で入院された利用者さんも2週間ほどで完治され、退院され元気に過ごされている様子が伺えました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医師の往診(月に一回)と毎週火・金曜日に看護師の訪問を受ける、その時には利用者の様子をお伝えして、変化のある時には、電話などで相談し対応方法などを教わりながら必要に応じた支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者やスタッフが面会に行ったり、家族に状況をお伺いして、情報交換をしている。また、医療機関に電話をして情報交換をして利用者が困らない関係づくりが出来るように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に看取りの指針について、説明をして同意を得ている。重度化が見られ始めた時点から、主治医・本人・家族と話し合いグループホームで出来る事を双方での理解納得の上共有し取り組んでいる。	入所時に看取りの説明を行なっていますが、重度化・終末時を迎えた際に、再度ご家族に確認してから、その時どきの思いに沿った支援に繋げて、可能な協力体制でご家族に寄り添った取り組みをしていきたいとお話でした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年間研修計画の中に急変時の対応・緊急時の対応について盛り込み勉強会を行っている。利用者の予想される急変に関しては、スタッフの中でリスクマネジメントとしての情報を共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の昼夜想定避難誘導訓練を実施している。当年は防火管理者による初期消火、消火器の使用法、119番通報のついて指導、講習を行っている。いざという時のために地域消防署や地域の方への理解協力をお願いしている。	11月の避難訓練では、夜間体制を想定した避難訓練が行われ、いかに冷静に避難誘導が出来るかがポイントになることを実感され、近隣の避難先の再確認が行われていました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個別で相談に乗る場合などは、居室等場所を変えゆっくり話が出来る様に配慮している。また、呼称についても要望をお伺いし、ご希望に沿った呼び方で対応している。	利用者さんの顔ぶれもあまり変わらず、開所して3年が経ちました。互いの理解も深まり、家族的な雰囲気定着して、皆さん穏やかに暮らしている様子が伺えました。個々を尊重した日々の対応の成果が現れていました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用者が遠慮なく思いが表現できるように、こちらから積極的に要望を聞くように常日頃から取り組んでいる。また、要望があった場合はノートを用いてスタッフ間で情報を共有している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日一日の体調や気分の様子を伺い見守りのもと、その日を穏やかに安心して過ごして頂けるように支援している。天気の良い日などは、外気に触れて過ごせるように、積極的に散歩などの参加を呼び掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	全員ではないが、好きな服装が出来る様に一緒に買い物に出掛け、洋服を購入するなどの支援をしている。また、季節に合った装いがしやすいようにタンスの整理などの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立表には出来るだけ利用者の希望を反映させるようにしている、食事の準備から片付けまでを利用者の力量に合わせて、参加して頂いている。自発的に手伝いをして下さる方も多くスタッフと一緒に楽しんでいる。	ホットプレートが活用され、卓上で調理された焼きそばを皆さん楽しんでいました。ムードメーカーの利用者さんの隣りには、受け答えのできる利用者さんを配置するなど、楽しい雰囲気づくりに配慮されていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量は毎食欠かさずチェックしている。その日の体調等に合わせ、出来る範囲で個別に合わせた献立や調理方法で対応している。必要に応じ主治医と連携し、栄養補助食品を提供することもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後声掛け誘導して、自歯の人は歯ブラシを、義歯の方の口腔ケアには付き添い見守りのもとで実施している、なるべく本人の意思や意欲を取り入れたケアを行っている。本人の希望で歯科主治医往診をお願いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄のサインを見逃さないように観察しているほか、定時に声をかけて促している。夜間も個別のタイミングで誘導をして快適に過ごせるように配慮している。	各部屋にトイレがあるので、失禁の回数が増えても、トイレの認識が出来ているので、トイレの感覚も鈍らず、尿意の低下防止に繋がっていました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄チェック表を活用しながら、便秘予防に食材の工夫もして牛乳、ヨーグルトなどを取り入れて、自然排便を促すような対応もしている。適度な歩行訓練を心掛けている。必要に応じて医師に相談して下剤服用などでコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	利用者の希望を確認しながら、入浴は一週間に最低2回以上は利用できるように支援、健康状態や精神的な面も見極めて、入浴中は会話を楽しみながら入浴が出来る様に支援している。	利用者さんの希望に応じた入浴回数で、最低週に2日以上入られるように計画されました。1対1での入浴時間は、普段なかなか聞けない、本音トークが聴けるなど、心許す大切なひと時となりました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中もレクリエーションの間にもご本人が休みたい時に休めるようにしている。夕食後の就寝時間は、自由で一人ひとりの思いで居室に戻り休まれる、一人ひとりの睡眠時間に合わせて、室温や寝具の整理をする様に支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	お薬係りを主に、スタッフが薬の変更や服薬について情報を共有し理解するために、申し送りノートを活用したり誤薬の無い様に3回確認している。主治医には必要に応じ服薬について相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一日を通して食器拭きや洗濯物を畳むなど、それぞれの役割を持って楽しみながら生活が出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	暖かい季節は施設周辺の散歩を日課として提供している。個別の外出支援として、馴染みの美容院への付き添いや、趣向品の買い出し支援を時々している、全体では、お花見や、紅葉狩りにでかけ、外食も楽しんでいただいている。	季節行事としての散策や外出の他に、回転すしや、うどん、ラーメンといった外食や利用者さんの馴染みのある場所への外出を、月に1度実施されストレス解消に努めていました。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族よりお小遣いとして、持って来て頂いている。お小遣いは基本的に施設で預かっていて、本人・家族の希望で使える様に支援している。嗜好品として飴玉を定期的に購入している利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族の所に電話をしたいという希望があれば、どんなお話をされるのか少し内容を確認させて頂き、自由に電話が出来るようにしている。年末には年賀状をスタッフと一緒に書いて頂くよう勧めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の移ろいがわかるように、季節ごとの飾りや花などを飾るようにしている。また、暖かい季節は窓を開け外気を十分取り込んでいるほか、散歩や日光浴をするように積極的に進めている。居室トイレは1日2回は清掃を衛生に十分に配慮している。	雪化粧をした北アルプスの壮大な山々が遠くに見え、その下には、ホーム前を大糸線の電車が通り過ぎるといった素晴らしい景色になっています。各部屋は日当たりも良く、それぞれの部屋に設置されたトイレと洗面台は、使いやすい作りで、掃除もいきとどいた清潔感のある個室になっていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人ひとりの居室で、ひとりになれる空間を提供して、ホールで仲良しな利用者同士が気楽にお話ができる関係が出来る様に、食事の席の配慮をしたりと、思いをお伺いして楽しい雰囲気作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、入所前の生活の継続性を大切に、馴染みのある家具・写真・置物・ぬいぐるみや遺影を飾っていただいている。時々、一緒に整理することで思い出に浸って頂く配慮もしている。	こだわりのある方の独創的な部屋、自宅から持ち込んだタンスや仏壇が置いてある部屋など、個々の希望に沿った、安心できる部屋になっていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	共用部にはなるべく障害物になる物は置かないようにして、自室の入り口には本人が分かりやすい様に貼り紙で名前を付けたリ、トイレには大きな文字で明記したりと分かり易い様工夫をしている。		